

平成24年度 磐田市立豊田中学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
「確かな学力」を学校	基本的な学習習慣の定着	生徒は、どの授業でも真剣に学習に取り組んでいるか。	A	○生徒は全体的に落ち着いた授業態度で、学習活動にまじめに取り組んでいる。 ※学習態度だけでなく、課題提出や家庭学習についても指導を充実させたい。	○授業を参観し、まじめな学習態度を確認できた。生徒と教師で授業を進めていく雰囲気を感じられる。 ○とことんテストは、基礎学力向上に大変役立っている。再テストに向けての個別指導などの対応は、学校の落ち着いた雰囲気づくりに貢献している。
		生徒は、落ち着いて朝読書をしているか。	A	○朝読書の時間には、ほとんどの生徒が読書に集中している。習慣化できている。 ※選択する著書が、より深く味わえるものになるように、良書紹介の機会を多くしたい。	
	基礎学力の定着	「とことんテスト」で、生徒の基礎学力は定着しているか。	A	○県学力調査等の結果を考察すると、国・数・英の基礎学力は、定着している。 ※学習意欲を高めるために、再テストの回数や補充学習の内容を検討していきたい。	
	学ぶ意欲の向上	自ら課題を見つけ、追求する学習態度が見られたか。	B	○授業で分からないことを自ら質問したり、調べたりする生徒は68%であった。 ※教科や総合的な学習の時間で、自らの学習課題の解決に取り組む学習を充実させたい。	
きれいな学校	基本的な生活習慣の定着	生徒は、元気なあいさつができていますか。	A	○「進んであいさつができる」と答えた生徒は93%であった。学校自慢を継続したい。 ※家庭や地域と協力して、校外で元気にあいさつができるように指導していきたい。	○あいさつは、全般的にできているように思う。地域でのあいさつは、大人から声を掛ければあいさつをする生徒からのそれは少ない。 ○あいさつは、学校と地域が連携して育成していきたい。顔見知りになるとあいさつもし易いので、地域の行事や豊明会での活動等をとおり関係構築したい。 ○自治会でのボランティア活動には、積極的に参加している。小・中・高の縦割りでの協力性があるので発揮させたい。 ○合唱コンクールの生徒の参加態度に感動した。情操教育の上で役立っている。立志式は、6年後の自分を考えるよい機会である。将来どういう大人になりたいか、夢を持たせ、実現できるように指導や支援をしていきたい。
		生徒は、日ごろから品のある身なりをしているか。	A	○全体的に服装等の乱れはなく、ほとんどの生徒が中学生らしい身なりである。 ※生徒会生活委員会による月1回の点検は生徒の意識を高くしているので継続する。	
		生徒は、善悪を判断して、正しい行動をしているか。	A	○「生活のきまりを守っている」と答えた生徒は89%。昨年度より5%で規範意識低下した。 ※正しいことを行動で表せるように、よい言動は称揚し、実践力を培いたい。	
	よりよい人間関係づくり	生徒は、場面に応じて、他人を思いやり、そっとアシストしたりしているか。	B	○福祉体験学習で、そっとアシストを実践した。思いやりにつける言動も一部にある。 ※思いやりの気持ちをどう行動に移せばよいか、道徳で実践力を学習させたい。	
		生徒は、場面に応じて、自分や他人にやさしい言葉遣いをしているか。	B	○場をわきまえた言葉遣いをしたいという意識はあるが、状況に応じた実践は難しい。 ※学級活動や道徳で、思いを伝える言葉の大切さについて指導を充実させたい。	
	豊かな活動の推進	生徒は、学校や地域のボランティア活動に積極的に参加しているか。	A	○学校内外のボランティア活動に参加した（しようした）生徒は82%と多い。 ※ボランティア活動への参加者を増やし、愛校心・郷土愛を高めていきたい。	
		生徒は、美しい学校づくりのために、意識して清掃に取り組んでいるか。	A	○清掃活動にしっかり取り組んでいると答えた生徒は95%。取組の質を高めたい。 ※生徒の環境美化委員会を活用し、清掃の開始時刻厳守や作業分担を指導したい。	
		授業や合唱コンクールの練習等で、明るい歌声が校内に響いているか。	A	○合唱コンクールでは協力し取り組む姿がある。校内から明るい歌声が聞こえてくる。 ※行事以外でも、年間を通して歌声が響く学級を増やしたい。	
	心と身体を磨く部活動	生徒は、部活動に粘り強く取り組んでいるか。	A	○「部活動は充実している」と答えた生徒は89%、保護者は84%である。 ※向上心がやや不足気味のため、個々の生徒に目標をもたせて部活動に取り組ませる。	
	開かれた学校づくり	保護者関連行事や学年・学校だより等で、学校と家庭・地域との連携は深められてきたか。	B	○学校から家庭への情報提供に好意的に受け止めている保護者は、83%。昨年度より7%。 ※学年だより等の各種たよりやホームページでの情報発信を定期的に継続したい。	

学校関係者評価を受けてのまとめ

○生徒に夢を持たせ、個に応じた指導・支援の下に、目標の設定し実践をさせる。その、過程と成果を振り返らせることをとおして、自己肯定感と自尊感情を高める。
○落ち着いた授業態度が継続できるように、授業改善に取り組み、言語活動を活用する指導を行う。来年度も、低学力生徒には、取り出し指導やTT授業により支援し、授業における生徒指導を実践する。
○とことんテスト(基礎学力定着テスト)の不合格者の特性を考慮した指導を丁寧に行う。そのために、教科担任と学級担任で生徒の特性について話し合う場を設ける。
○あいさつの向上は、小中一貫教育の柱として地域・小学校との連携を図る。生徒会活動、PTA活動、豊明会活動(健全育成会)をとおり、積極的なあいさつができるように指導の充実を図る。
○ボランティア活動に参加した生徒を称揚する。ボランティア活動を紹介する掲示板を設定し、参加率を高める。民生委員や自治会長との懇談等をとおり、地域でのボランティア活動の状況を把握する。
○「きれいな学校」には、「心の美しさ」と「環境面の美しさ」があることを生徒に自覚させる。不登校生徒数減少やいじめ防止のためにも、特に、心の面での「他を思いやりそっとアシスト」「やさしい言葉遣い」が実践できるように、道徳の授業や行事での場面を捉えた指導をしたい。Q-U検査を用いて、個々の生徒の心情を把握する。